

思春期 サポートプレイス通信



温かい春の日差しを感じるころとなりました。皆様、お元気で過ごしてはいかがでしょうか。
1月26日(日)に開催した第3回思春期サポートプレイス講演会ですが、95名の方に御参加いただきました。御参加くださった皆様、ありがとうございました。

本号は、第3回思春期サポートプレイス講演会の御報告を中心にお送りします。合わせて来年度の日程もお知らせしますので、ぜひ御参加ください。

令和6年度 第3回 思春期サポートプレイス講演会

子どもが『学校に行きたくない』背景

講師 子どもと家庭のメンタルクリニックやまねこ院長 児童精神科医 田中 哲 氏

1月26日(日)に
開催しました

【講義の内容 (一部抜粋)】

不登校問題の本質

人と関わりを持つことに苦手と感じる子が増えている。周りの子が、うまく輪の中に入れない子に対して関わっていくスキルを上げることも大事である。そこに目を向けていないことに、不登校問題の本質がある。

学校は様々な枠をつくる。枠は必要であるが、枠があると抵抗する子どももいる。その子は、学校に居づらい状況があるので、その子に合った枠を見つけることが大人の役目である。

beingの視点

beingとは、その子のあり方・doingとはその子のやり方のことである。

子どものdoingには必ず意味がある。その意味がbeingである。

大人はその子のbeingに焦点を当てるのが大事である。その子がそこに存在することや子どもの「らしさ」がbeingである。誤ったbeingはなく、その子のbeingを傷つけないことが大事。子どものbeingは絶えず変化を続けるところが特徴である。

ウチ・モードとヨソ・モード

ウチ・モード世界：自分の気持ちを伝えることに不安がない状態 ヨソ・モード世界：気持ちを伝える努力が必要な状態
自立をしていくためには、ウチ・モード世界からヨソ・モード世界に移行することが必要になる。

育ちのエネルギーを生み出す振り子運動

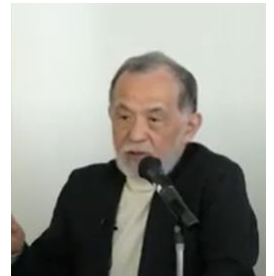
子どもの世界の安定は、背伸び（能動性優位）と甘えん坊（受動性優位）の間を自由に行き来できることで支えられている。周りの大人はそのことを理解してほしい。

こころの育ちに寄り添うために必要な場所、必要な人々

自分らしさを十分に発揮できることや自分のbeingが否定されないと感じられる居場所が大切である。

子どものbeingが傷ついてしまっているかもしれないことに敏感であることが大事である。

大人のbeingを上げて、子どもに寄り添って接してもらいたい。



田中 哲 氏

今回も関連図書の展示を行いました!!

講演会当日は、都立多摩図書館の司書の方により、会場に不登校・ひきこもりに関する図書の展示ブースが設置されました。

都立図書館には多くの図書が所蔵されておりますので、ぜひ御活用ください。



★★令和7年度 思春期サポートプレイス講演会

第1回：令和7年 6月21日(土)
第2回：令和7年 10月18日(土)
第3回：令和8年 1月24日(土)

3回とも、午後の開催です。
日程等変更する場合がございますので、
詳細については、令和7年5月以降に
当センターWebページで御確認ください。



思春期サポートプレイス
Web